

医学部看護学科

香川大学

ナーシング・プロフェッショナル育成入試ガイド
(総合型選抜Ⅰ)

2027



(香川大学三木キャンパスの所在地 三木町にて撮影)

目次

香川大学ナーシング・プロフェッショナル育成入試（NP入試）とは	2
NP入試の日程について	3
第一次選抜提出書類について	3
香川大学医学部看護学科が求める学生像	4
第二次選抜について	4
香川大学ナーシング・プロフェッショナル育成入試 学生募集要項説明会（オンデマンド配信）	5
NP入試合格者への入学前教育について	5
NP入試で入学した在学生の声	6
養護教諭コース修了者の声	10
香川大学医学部附属病院で働く卒業生の声	11
博士前期課程・看護学コースへ進学した大学院生からの寄稿	12
博士前期課程・公衆衛生看護学コースへ進学した大学院生の声 （保健師養成課程）	13
博士前期課程・助産学コースへ進学した大学院生からのメッセージ （助産師養成課程）	14
香川大学医学部看護学科 NP入試 入学者出身校	15
香川大学医学部看護学科 NP入試入学者 出身地・進路	16
香川大学医学部看護学科をもっと知るために	17

香川大学ナースング・プロフェッショナル 育成入試（NP入試）とは

香川大学は

「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。」

という大学の理念にふさわしい学生を求めています。

看護学科では

看護の対象を包括的に捉え、問題解決するための論理的思考力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力が必要です。

多面的な視点から思考し、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力

主体的に多様な他者と関わり、他者の意見や価値観を尊重し、相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力

を備えている人を求めています。

〈香川大学ナースング・プロフェッショナル育成入試（NP入試）とは〉

香川大学医学部看護学科では、大学入学共通テストを課さない「総合型選抜Ⅰ」を実施しています。

第1次選抜（書類選考）と第2次選抜（小論文試験及び面接）により、

アドミッションポリシーに合致した優秀な人材を選抜しています。



- ◆ 大学入学共通テストは課しません
- ◆ 1校あたりの出願人数に制限はありません
- ◆ 学校長による推薦書は必要ありません
- ◆ 募集人員は「25人」です

入学希望者の意欲や個性を大切にし、高校生自らの意思により、エントリーできる入試です（既卒者も出願できます）。



●日程について



第一次選抜提出書類について

2027香川大学 ナーシング・プロフェッショナル育成入試（NP入試）の出願書類は以下のとおりです。詳細は募集要項をご確認ください。

◎は必須 ○は任意

◎看護学を香川大学で学ぶ動機及び根拠（1,000字以内）
“香川大学で”という内容が必ず含まれる必要があります。

◎合格後、入学までの約5か月の間に、看護学を学ぶ準備としての具体的な取り組み内容（600字以上800字以内）

◎エッセイ（1,000字以内）（3つのテーマの中から1つを選択）

- A. 自分の考えや行動を分析する「内省」は、自己の成長に重要です。あなたは、自身の内面と向き合うことはどのように自己の成長とつながると考えますか。
- B. 他者の多様な生き方を理解するために、あなたに必要なことは何ですか。
- C. 地域の中で支え合って生きる社会を実現するために、何が課題だと考え、どう貢献したいですか。

○意欲的に取り組んだ活動・課題研究等（100字まで入力可能）
複数ある場合は3件まで入力可能ですが、件数による評価は行いません。

○取得資格・検定等
証明書についてはコピー（A4サイズで統一）を提出してください。
提出された書類は返還しません。

看護学科では、

- ◆看護の対象を包括的に捉え、問題解決するための論理的思考力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力
 - ◆多面的な視点から思考し、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力
 - ◆主体的に多様な他者とかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力
 - ◆人々の健康を支援するために看護に高い志と強い関心を持ち、継続して意欲的に課題に取り組むことのできる能力
 - ◆看護専門職として国内外を問わず社会に発信し、生涯にわたり学び続ける態度
 - ◆尊い人命を預かる看護専門職者として、また社会の構成員としての、自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力
- が必要です。

以上のことから入学を希望する人は、高等学校において国語，理科，外国語，数学，社会の各教科の基礎学力を十分に身につけておいてください。



第二次選抜について

小論文Ⅰ・Ⅱと面接を実施します。

◎面接（配点100点）

2026年度は、

4人の医学部教員による、受験者1人あたり15分の個人面接を行いました。

- 面接に先立ち、前室で提示された設問から、それについての考えを10分間でまとめられました。
 - その後面接室に移動し、発表してもらいました（約5分）。
 - 引き続き、志望理由や動機、科学的な興味や関心などについて、質疑応答を行いました（約10分）。
- 志望動機や勉学意欲、科学的な基礎知識、論理的な思考力、自分の考えを言葉にして的確に伝えることができているかなどを評価しました。

***前回のNP入試がどのように行われたかについて示したものです。
2027年度NP入試が同様に行われるということではありません。ご注意ください。**



香川大学ナーシング・プロフェッショナル育成入試 学生募集要項説明会（オンデマンド配信）

NP入試に特化した説明会をオンデマンド動画で配信しています。
右のQRコードを参照のうえご覧ください。

※ 医学部・医学系研究科ウェブサイトからご覧いただけます。
https://www.med.kagawa-u.ac.jp/prospective_students/kango/suisen_nyuushi/



公開期間（予定）：6月中旬頃から
9月8日(火)（出願最終日）まで



NP入試合格者への入学前教育について

香川大学医学部看護学科では、NP入試合格者に対して、約3回（11月、1月、3月頃）の入学前教育を行っています。

【初回】

第1次選抜の際に提出された入学までの勉強計画に関する取り組み内容について、3人1組で担当教員がオンライン指導を行います。

⇒ 1人1人に合わせたアドバイスや進め方を一緒に考え、入学まで不安がないように丁寧にフォローしています。

【2回目以降】

メールで中間報告をしていただき担当教員から進捗状況に応じたレポート指導を行います。

【最終回】

対面で入学までの自己目標の取り組みと評価についてパワーポイントなどを用いてグループで成果発表します。看護学科の教員による看護倫理の講義を受講します。

⇒ 看護学において、看護倫理は重要な科目の1つです。大学に入ってから学ぶことになるのですが、基礎看護学の教授より提示された課題に取り組み、より早期に学ぶことで、大学生活への不安を軽減します。

入学前教育に参加したNP入試合格者の声

NP入試合格後は教員と合格者2～3人でグループが作られ、合格後にすべきことについて計画を立て実施しました。また私は自主的に看護学の勉強や英語の勉強など自分の深めたい勉強を行っていました。NP入試で早めに合格したからと言って一般入試で合格した人たちと比べて、勉強量が少なくなることはなかったので大学入学後に勉強面で困りませんでした。 令和6年度卒業生（岡山県立津山高等学校 只友理沙）

NP入試で入学した在学生の声

自分の経験を力にして

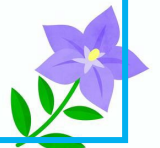


1年生 中丸 かのんさん
(岡山一宮高等学校出身)

私は母が看護師であったことから、看護師という職業を身近に感じて育ちました。患者さんの一番近くで支えることができる存在であることに魅力を感じ、看護師を目指すようになりました。また、これまで高校で取り組んできた課題研究や発表の経験を活かせると考え、NP入試を受験しました。

高校では、「地震発生時における重心の位置が家具の転倒に与える影響」をテーマに課題研究に取り組み、実験結果をポスターにまとめて校内外で発表しました。「岡山夢育PBLフォーラム」や海外の高校とのオンライン交流など、国内外で発表する機会も経験しました。発表では、専門的な内容を分かりやすく伝えるために構成や表現を工夫し、英語での発表にも挑戦しました。想定外の質問に対応する中で、考えながら答える力を養い、論理的に整理して伝える力を身につけました。一方で、高校生活の後半には思うようにいかない時期もありましたが、限られた時間や環境の中で、できることを積み重ねながら出願書類の作成や入試準備に取り組みました。入試対策としては評論文を中心に学習し、小論文対策は試験の約3週間前から開始しました。日本語・英語ともに過去問に取り組み、添削を受けながら改善を重ねました。面接対策は2週間前から行い、看護に関する基礎知識も参考書で整理しました。十分な経験があるとは言えない中でも、工夫しながら対策を進めました。試験当日は、自分にできることに集中して臨み、状況に左右されず努力を積み重ねる大切さを実感しました。入学前教育では約5か月間、看護学の土台づくりとして主体的に学習に取り組みました。医療に関するニュースや記事を継続的に収集し、「概要・気づき・看護とのつながり・問い」の観点から整理しました。医療制度や災害医療、終末期医療など幅広いテーマについて考え、自ら問いを立てて学びを深めました。また、学習内容の偏りに気づいた際には分野を広げるなど見直しを行い、英単語学習も計画的に継続しました。これらを通して、主体的に学び続ける姿勢と課題を見つけて改善する力を身につけました。

現在、大学生活はまだ始まったばかりですが、先生との距離が近く、親身に関わってくださる方が多いと感じています。また、看護学科にはコミュニケーション能力が高く、温かい人が多く、日々の学びがとても楽しいです。香川大学を選んでよかったと感じています。入試は、必ずしも万全な状態で臨めるとは限りませんが、しかし、これまでの経験や努力は確実に力になります。完璧でなくても、自分にできることを積み重ねていくことで、道は開けると感じています。





自分の特性を生かして

2年生 芳地 初音さん (香川県立丸亀高等学校出身)

私は小学四年生の頃に担任の先生から資格を取りなさいと言われたことに感銘を受け、母の職業でもある看護師を志すようになりました。私は人と関わることが好きで、医師よりもより近い立場で患者さんと関われる看護師という職業に強く惹かれました。

私が進学先として香川大学を選択した理由は、地域医療に深く貢献したいと考えていたからです。現在、日本は少子高齢化が進んでいます。私の地元の三豊市では特に進んでおり、看護師としてどうアプローチできるかを学びたいと考え、地元香川のことを深く学べる香川大学に進学しました。



入学までにはボランティアや生徒会など、主体性や自主性を高め、内面を成長させられるような活動をしていました。高校時代は自由生徒会に所属し、同級生や先輩、下級生や先生と協力しながら学校行事の企画や運営に取り組んでいました。医療の現場でも仲間とのチームワークは欠かせないので、生徒会での経験は自分の大きな強みになっていると思っています。大学に合格してからは、定期的に献血ボランティアや医療系学習会に参加しています。献血ボランティアでは主に献血ルームの前などで呼びかけを行っています。医療系学習会では授業では学べないけれど、医療従事者として大切な倫理観やポリシーを学んでいます。実際に医療現場で働いている看護師さんや理学療法士さんのお話を聞ける貴重な機会です。学力的な面だけでなく内面も磨くことができていると感じています。香川大学は勉強だけでなく部活等も盛んに行われています。部活を通して他学科、他学年の人ともコミュニケーションをとることができ、かけがえのない仲間も増えます。多くの仲間と切磋琢磨し、協力し合いながら日々過ごしています。

今後はより専門的な内容を学んでいくと思いますが、今までよりももっと自主的に勉強し、友達と協力しながら深い学びを行っていきたいです。実習等も今後増えていくと思うので、仲間と共に協力しながらひとつひとつの経験を自分のものにしていけたら良いと思っています。

皆さんも香川大学の看護学科で学んでみませんか。



自ら行動して夢の実現へ

高校入学時から大学進学を目指していましたが明確な夢が見つからず、なかなか勉強に身が入りませんでした。そんな中、ある日の下校中、目の前で交通事故が起きました。学校で救命講習を受けていたのにも関わらず体が動かず、何もできない自分自身に不甲斐なさを感じて患者さんの一番近くで寄り添って、元気になるお手伝いをしたいという気持ちが芽生え看護師を志すようになりました。

その中でも救急看護に携わりたいと感じ、私が興味がある一次救命処置について論文を出している先生がいらっしゃる香川大学を志望しました。

3年生 石橋 竜一さん (愛媛大学附属高等学校出身)



また、香川大学ネクストプログラムには救急看護に携わる上で必要となる災害について学ぶことができるカリキュラムがあることにも惹かれました。加えて、NP入試では合格発表が他大学に比べ早い時期にあるため、合格後の期間を使用して看護学を学ぶ上でやってみたい明確な目標があったため、私には香川大学しかないと思いました。夢を見つけてからは夢を実現するために勉学や部活動により一層励みました。ボランティア活動に参加したり、献血に参加したり、看護体験に参加したり、ナイチンゲールの看護観の本を読んだりなど夢に近づくために積極的に行動しました。



香川大学では総合大学であるため、専門分野の学習に加え、文理問わず様々な学問を学ぶことができ、多くの人と関わるため看護に必要な不可欠な基礎学力やコミュニケーション能力を十分に養うことができます。さらに、他国との国際協力も積極的に行われており、多様な文化や価値観を受け入れることができるとともに英語力の向上が期待できる香川大学を選んでよかったと日々感じています。

みなさんも、緑豊かなこのキャンパスで、ともに学びませんか。

夢の実現へ向けた想い



4年生 井上 諒香さん (岡山県立矢掛高等学校出身)

高校1年生のころから助産師になりたいという夢がありました。その夢を叶えるための学ぶ場はたくさんあり、どこで学びたいのか悩みました。唯一決めていたことは、4年間色々な角度から医療、看護を学ぶことのできる大学に行きたいということだけでした。そのために地元である岡山から東京にあるたくさんの大学を調べました。その中で見つけたのが香川大学のナーシング・プロフェッショナル入試です。興味を持ったのは自分でも国立大学で看護を学べるかもしれないと思ったからかもしれません。しかし、入試を通して、香川大学で学べるかもしれないという思いが、絶対に学び、助産師になるという思いに変わりました。

看護に対する思いがより強くなったのは入試の出願の際に提出する書類を考えたときからでした。香川大学で学ぶ動機やエッセイ、入学までの5か月間で看護学を学ぶためにどんな準備を行うかをそれぞれ考えました。私は今まで、どうして助産師になりたいと思ったのか自分で深く考えたことがありませんでした。「赤ちゃんが大好き」「誰かの命を助けたい」「困っている人の力になれるような知識をつけたい」などのようなざっくりとした理由しかうまく言葉にできませんでした。

そこから高校の先生とマンツーマンで自分の思いを掘り下げていきました。すると、助産師になりたいと思ったのは小さいころから妊婦さんが気になり、命の誕生に興味を持っていたことから始まっていたこと、看護を学びたいと思ったのは身内が病気になった際、自分の無力さが悔しくてたまらなかったことから繋がっていたと知ることができました。

また、目標とする看護者の像も作ることができました。私は入学前の看護学を学ぶための取り組みの1つとして保育園で数日ボランティアをさせていただきました。看護も保育もかけがえのない命を守る仕事で大切にされていることは同じと考え、視野を広げるために行いました。そこでの学びは今の看護学の演習にも生かされていると思います。患者さんの立場になり、どうしたら不安を与えてしまわないか、どうしたら患者さんの変化に気づくことができるのか、どうしたら安全に看護をすることができるのか考えるようにしています。

ナーシングプロフェッショナル入試だったからこそ、助産師という夢を持ち、今看護を学ぶことができていると感じています。自分なりの看護観をもち、理想とする助産師になるための階段をのぼる準備がこの入試でしっかり準備できたことは今の頑張りにも繋がっています。





養護教諭コース修了者の声



現在、看護学学士・看護師免許取得後に本学大学院の公衆衛生看護学コースに在籍し、保健師免許と養護教諭専修免許を取得予定の二人にお聞きしました。

どうしてナースィング・プロフェッショナル育成入試（NP入試）を受けたのですか？

高校2年生のときから香川大学の看護学科に行きたいと決めてました。多くのチャンスを得て確実に入学したいと思って、NP入試を受けたんです。一般入試の人より先に合格した分、心に余裕を持ちながら興味のある分野の勉強に時間を使えました。
香川県立高松高等学校出身 山内理子



私は高校生の時に、こども食堂などのボランティア活動や部活動に精力的に取り組んでいました。NP入試は、高校での学力成績はもちろんのこと、学校内外の活動も含めた多方面から総合的に評価していただくことができるので、私に合った入試形態だと思い、受験を決めました。
香川県立高松高等学校出身 徳田萌花

いつごろから養護教諭に興味があったのですか？

私は、大学入学してからです。1年生のガイダンスで、具体的に養護教諭コースのカリキュラムを知ったのをきっかけに興味を持つようになりました。
山内



幼いころ、教師になるのが夢だったこともあり、入学当初から学校保健に興味がありました。学校と看護の両面から子どもたちの健康を守り抜いていきたいと思ったのがきっかけでした。徳田

看護師と養護教諭の2つの資格を目指すのは大変ですか？

特に2年生の時は看護の勉強も非常に難しく、試験も多いため、教職の課題や試験と両立するのはとても大変でした。でも、養護教諭の勉強をすることで、教育という新たな視点から小児看護や公衆衛生看護を考えることもでき、看護を学ぶ上でも自分の強みになっていると実感しています。徳田



他の学生よりも多く授業を受け、テストやレポートの期日が重なって少し大変な時もありますが、養護教諭コースでの学びが看護師コースでも生きてくることが多く、やりがいを感じています。今は大変でも、養護教諭コースでしか学べない知識や技術が将来必ず役に立つと信じて頑張っています。山内

香川大学の魅力は何ですか？

看護学科では、国際交流が充実しています。チェンマイ大学との交換留学はもちろんのこと、普段の講義の中で国際看護について学ぶ貴重な機会がたくさんあります。グローバルな視点で看護を学ぶことができるのは、香川大学の大きな魅力の1つです。徳田



小中学校だけでなく、幼稚園から特別支援学校まで、多様な校種での養護実習を経験できることは、本学の大きな特長であり、魅力の一つです。養護教諭コース担当教員

教員採用試験に合格するのは大変と聞きます。対策はありますか？

教員採用試験の全体の倍率は下がっていますが、養護教諭の場合は、1校に1人配置のケースが多く、採用が少ないため高い倍率を維持しています。2023年から始まった「大学3年前倒し選考」は、実施する自治体が増えてきているため、4年生になってから採用試験を受験するのではなく、早くからチャレンジするのもよいと思います。大学の講義だけでは試験に合格するのは難しいので、早くから自主的に勉強し知識を定着させることが必要です。看護学科では、3年生の後期から教員採用試験対策講座（筆記対策・集団討論・面接・模擬授業など）を行っています。





和氣 穂乃花さん（香川誠陵高等学校出身）

香川大学で学んだこと

私は香川大学に入学後、看護学について基礎から学んでいくと同時に、自分が行いたい看護について考え、先生方や友人、家族に支えられ充実した4年間を過ごすことができました。入学当初は初めての大学生活に慣れないことも多々ありましたが、講義や実習での学びの中で、母性看護・小児看護の奥深さに魅了され、いずれは新生児看護の分野で患児さんだけでなくそのご家族をも含めた看護実践ができる看護師になりたいと考えています。

香川大学では1年生の頃から早期実習で学べる機会が設けられており、講義や実習において信頼できる先生方から多くのことを学ばせていただける環境が整っています。時に悩みながらも、先生方をはじめとする多くの方々を支えられ、友人と切磋琢磨しながら過ごした4年間の経験はかけがえのないものとなりました。

NP入試を受けて良かったこと

私はNP入試を通して、自分で考えること、そして考えたことを言葉にして自分で表現する力を身につけることができたと思います。

NP入試では、高校の授業で学ぶことだけでなく、社会で起きていることにも目を向けて自ら積極的に学び、自分で考えたことを限られた時間で相手に分かりやすく伝えることが求められます。受身でいるのではなく、自ら積極的に動いて視野を広げていくと同時に、どのようにすれば分かりやすく的確に相手に伝えることができるかを考え、それを実践していくことが必要です。

私はNP入試を受けるにあたって、新聞や書籍を読みこんだり、自分の考えを正確かつ分かりやすく発信することを繰り返し練習しました。自分で考え、それを相手に伝わりやすい言葉で表現することは、簡単なことではないかもしれませんが、このことは大学生活のみならず、社会に出た際にも求められる必須のスキルだと思います。特に、看護師は患者さんとの関わりや多職種での関わりなど、人との関わりが多くある職業なので、このスキルがより重要になってくるのではないかと思います。

自分で考え、それを言葉にする力は、将来どのような場所においても役立つ大切な力です。その力を養い成長するためにも、NP入試は最適だと思います。



看護師として働くモチベーション

看護師として働き始め、分からないことや自分に足りないことを日々実感する毎日で、これから多くのことを学んでいくことが必要だと感じています。まだまだ経験が浅く、できないことや分からないことが多い新人看護師ですが、先輩方に多くのサポートをしていただきながら、学びを深め成長していける環境が整えられていると思います。1つ1つのケアの実践は、見学から始まり、先輩に手技を見ていただいて合格してから1人でケアを行えるという流れになっています。

患者さんやご家族との関わりの中で、自分1人では何もできないことに悔しさやもどかしさを感じることもありますが、1つずつ確実に、患者さんとそのご家族1人1人に寄り添った、安全かつ的確な看護を実践できる看護師になれるように、学び続けていきたいと考えています。大学時代の講義や実習、先生方や実習先の看護師、患者さんとの出会いを通して、「1人1人の思いに寄り添い、治療だけでなく患者さんやご家族の生活、心のケアを行える看護師になりたい」という目標ができました。目標となる先輩方に少しでも追いつき、自分のなりたい看護師像を叶えられるよう、1日1日を大切に頑張っていきたいです。



香川大学で見つけた新たな夢

廣畑 颯花さん（岡山県立玉野光南高等学校出身）

看護師を目指して

私は幼い頃から皮膚が弱く病院に行く機会が多い子供でした。頻繁に通っていた病院で採血されるのが嫌で仕方なかった時、看護師さんが痛みもなく素早く採血を終わらせてくれたことに感動し、看護師になりたいと思い始めました。

高校生になり進路を決めるとき、私は学費が安く看護以外の事も幅広く学べる国公立大学を受験する事を目指して勉強していた中で、香川大学のNP入試を先生に教えていただきました。実家から通える範囲での大学進学を考えていたため香川県へいくことは不安でしたが、NP入試が主に文章を書いたり、話したりする力が求められるため自分の得意な分野を生かすことができると知り受験を決めました。志望理由書やエッセイ、そして合格後どのように勉強していきたいかを担任の先生方に協力していただきながら提出した後、私は英語が特に苦手だったので英語の文章が読めるように、そして小論文というものの書き方について学校の先生に教えていただきながら勉強していました。特にエッセイは普段書く機会もなく未知のものでしたが少し難しいテーマでも自分の考えをまとめて伝える力が養われました。面接は事前にも聞かれそうなことに対する回答をまとめて覚えたりしていました。本番では予想と違ったことも聞かれましたが、自分の素直な考えや気持ちを伝えることを意識しました。合格後は一般受験でも合格できる力を身に着けるため他の友達と一緒に共通テストまで勉強し、共通テスト後は計画書に基づき英語や理科の勉強、看護に関係する本を読んだりしていました。

香川大学医学部看護学科での学び

1年生の時は看護学だけでなく、他の学部の人と一緒に本学で授業を受けます。自分たちが履修登録を行って好きな授業を選択し自分の興味のある分野について勉強することができる点が特徴でとても楽しかったです。またそこで学んだ知識を看護の授業で活かすことができ、この点が大学で看護を学ぶ大きな利点だと思います。



2年生での一番大きな出来事は2週間の病院実習に臨む事でした。みなさん看護の実習と言うと怖い、大変、寝られないなどのイメージが強いかもかもしれません。私も同じように思っていたのですが、先生方は親身になって一緒に考えてくださり、疑問に思ったことを詳しく教えてくださいました。看護師さん達は私達の拙い意見にも耳を傾け、指導していただけました。終了後はとても楽しかったと思える実習でした。香川大学医学部附属病院の理念には医学教育を推進することが含まれており、病院の看護師さん達は私達がより良い看護師になれるように協力してくださいます。香川大学の看護学科の一番魅力的な部分はこの病院実習の受け入れ体制にあると思っています。

その後の学びを通して、私は次第に看護を「実践する」だけでなく、「より良くしていく」ことにも関心を持つようになりました。臨床での疑問を探究し、根拠をもって看護を発展させていくためには研究が重要であると感じ、現在は大学院の看護学専攻に進学しています。博士前期課程で、自身の関心領域について研究を進めながら、看護の質向上に貢献できる力を養いたいと考えています。また、NP入試で培った「自分の考えを表現する力」は、研究計画の立案や発表、論文作成などにおいても活かされており、学部から大学院へとつながる学びの一つであったと実感しています。

将来的には、臨床と教育の両面に関わりながら、大学教員として後進の育成にも携わりたいという夢もできました。高校生の皆さんにも、看護の道は多様な可能性が広がっていることを知ってほしいです。少しでも興味があれば、ぜひ香川大学と一緒に学んでみてください。



NP入試を経て、
**博士前期課程・公衆衛生看護学コースへ
進学した大学院生の声（保健師養成課程）**

村上 華音さん（香川県立観音寺第一高等学校出身）

長町 尚美さん（大手前高松高等学校出身）

★なぜ、NP入試を選択したのか

村上：オープンキャンパスでNP入試を知りました。高校3年生の時に香川大学に進学したいと決め、多くのチャンスがあるNP入試が自分に合っていると感じました。また、高校時代に力を入れて取り組んだ課題研究やボランティア活動など、自分の強みを生かすことができることから、受験を決めました。

長町：コロナ禍にオンラインでさまざまな講演会に参加し、国際看護の現状や子どもの生活環境、当時の医療現場の状況について学ぶ機会がありました。その中で、看護について深く考えるようになりました。そのため、自分の思いや考えを直接伝えられる面接や小論文があるNP入試は、自分に向いていると感じました。また、NP入試では合格後も学びが続き、入学前から自分の関心を深められること、主体的に学びに取り組める環境があることにも惹かれ、NP入試で受験しようと決めました。

★院生生活はどうか

村上：同期が4人と少数ですが、その分授業では主体的に話し合い、多くの考えに触れることができ、日々刺激を受けています。知識を深めるだけでなく、自分の考えを相手にわかりやすく伝える表現力や多面的に物事を考える力も養うことができます。現在は、自分の関心のある「災害」についての研究に取り組んでおり、充実した毎日を過ごしています。

長町：大学院の授業ではディスカッション形式が多く、仲間と意見を交わす中で新たな視点を得る機会が多くあります。そのため、日々の学びに深まりがあり、常に新しい発見があります。最近では夜間の授業や研究活動も始まり、忙しさは増していますが、充実した毎日を過ごしています。

★保健師になろうと思ったきっかけ

村上：幼い頃から両親の影響で医療職に興味がありました。高校1年生でのオープンキャンパスで保健師という職業を知りました。赤ちゃんから高齢者まですべての地域住民の健康や暮らしを支える上で重要な役割を担っていることを知り、その魅力に惹かれました。大学入学後は、地域の健康教室でのボランティアや実習を通して、地域でその人らしく暮らしつづけるための大切さを改めて実感し、保健師になりたいと強く思いました。

長町：実習を通して、私は病院でのケアだけでなく、地域で暮らす人々の健康を支える役割に魅力を感じました。病気になる前の予防や、日常生活の中で健康を守る支援を行う保健師の姿に憧れ、私もそのような存在になりたいと思いました。

★なぜ香川大学を選んだのか

村上：私は香川県出身で、将来は地元で貢献したいという思いがありました。香川大学大学院には保健師課程があり、単に資格を取るだけでなく、保健師に必要な主体性や専門性、思考力を身につけることができると思い、志望しました。また、大学院受験の際は、学部時代からご指導してくださった先生方がいらっしゃることで、興味のある分野を学ぶことができる環境に魅力を感じ、香川大学を選びました。

長町：香川大学はチェンマイ大学との国際交流があり、海外の医療や保健活動について学べる機会があります。また、附属病院とも連携しており、実習環境がとても充実している点も魅力です。保健師コースは2年間あるため、地域の健康課題や保健活動についてじっくりと学ぶことができます。社会課題や人々の健康に向き合いながら、自分の関心を深めたいと考え、大学院への進学を決意しました。

NP入試を経て、大学院博士前期課程 助産学コース

へ進学した大学院生からのメッセージ

竹下 愛結さん（西条高等学校出身）

私は高度な助産医療を学びたいという思いから、助産学コースがあり、附属病院で実習できる香川大学を志望しました。NP入試では、小論文や面接対策は時間をかけて入念に行い、同じく香川大学を志望する仲間とともに過去問題に取り組む中で、問題形式に慣れることの大切さを実感しました。

現在は看護課程を修了し、助産学コースで学んでいます。大学院ではより専門的かつ実践的な学びが豊富にあり、大変さもありますが、看護課程でお世話になった先生方や附属病院の指導者さんの丁寧で親身なご指導に支えられ、着実に成長できていると感じています。

この恵まれた環境で、ぜひ一緒に素敵な看護師や助産師を目指しましょう！

松岡 優衣さん（高松第一高等学校出身）

私は、香川県で生まれ育ち、香川が好きなので地元の地域医療に貢献したいという思いから香川大学の看護学科を受験しました。私は文章を書いたり自分の意見を発表したりすることが苦手で、NP入試を受けるかとても迷いました。しかし、両親が「チャレンジしてみたら？」と背中を押してくれたことで、自分が成長できるチャンスでもあると思い、受験することを決めました。一次選抜では、時間はかかりましたが自分の言葉で一通り書き、担任の先生や国語の先生から指導をいただきました。二次選抜では、医療系小論文についての本を読んでテーマごとに書く練習をしたり、担任の先生や保健室の先生に面接練習をしていただいたりして対策を行いました。練習を重ねるごとに少しずつ書けるようになり、自分に自信を持てるようになりました。今はあの日NP入試を受けると決めて良かったと思っています。

入学してからの看護学実習では、医療者の一員として患者さんと関わらせていただくため緊張感がありますが、先生や看護師さんが学生一人ひとりに優しく丁寧に指導して下さります。患者さんからお礼の言葉をいただけたことは今でも心に残っており、大きな励みになっています。NP入試に不安があり迷っている方は、ぜひ挑戦してほしいです。小論文や面接練習は大変ですが必ず力になります。心から応援しています！

黒川 愛結さん（今治北高等学校出身）

私は幼少期から看護師を目指しており、大学受験に当たり具体的な進路を考える際に助産師という職業の魅力に惹かれ、実習環境が充実している香川大学への受験を決意しました。小論文の対策では、さまざまなテーマで書いたものを先生に添削していただき、何度も書く練習をしました。面接では、事前に自分の考えをノートに書きだすことで細かく整理し、何度も練習を行うことで自分の考えを相手に伝えることができるように準備を行いました。当時、NP入試のためにかかわってくださった先生方の熱いご指導があり、今の私があると思っています。

大学4年間で看護学を学び、助産師になりたいという思いはより強まり、現在は大学院で助産学について学んでいます。日々の勉強や実習、国試など大変なことはたくさんありますが、先生方のご指導と共に学ぶ友人のおかげで充実した毎日を過ごしています。みなさんと一緒に香川大学で学べることを楽しみにしています。



香川大学医学部看護学科 NP入試 入学者出身校

※2017年度～2026年度入学者



※2017年度～2026年度総合型選抜Ⅰ入学者の出身高等学校名です。
（都道府県別 順不同）
※高等学校名は出願時の名称です。
※各学校名の後の「高等学校」「中等教育学校」等は省略しています。

NP入試入学者 出身地（2017～2026年度）

出身地	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
香川県	8	7	10	10	13	11	10	12	8	14
岡山県	6	6	6	6	7	4	5	1	3	3
愛媛県	3	8	6	4	6	5	7	10	7	7
徳島県	1	0	1	1	1	0	2	0	0	1
中国地方 (岡山除く)	2	0	2	1	0	2	0	2	3	0
近畿地方	6	6	2	4	0	3	2	0	2	1
中部地方	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0
九州・沖縄 地方	1	0	0	0	0	1	1	1	2	0
関東地方	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0

NP入試入学者 進路（2017～2022年度）

進学・就職先	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
香川大学医学部附属病院	10	17	10	7	12	10
その他病院看護師	9	4	9	10	9	8
養護教諭	0	0	0	1	2	0
保健師	2	2	5	/	/	/
大学院進学（助産学）	2	4	3	4	1	3
大学院進学（看護学）	2	0	1	0	0	2
大学院進学（保健学）	1	0	0	1	3	2
教職大学院進学	0	0	0	1	0	0
その他	0	0	0	1	1	0

※2020年度入学者から医学部看護学科における保健師課程の選択制を廃止
2023年度入学者から大学院(博士前期課程)における公衆衛生看護学コース(保健師養成課程)の新設

香川大学医学部看護学科をもっと知るために

香川大学医学部看護学科ホームページ

<https://www.med.kagawa-u.ac.jp/faculty/about/kangogakka/>

香川大学医学部 進学希望の方向けページ

<https://www.med.kagawa-u.ac.jp/admission/>

看護学科 学科紹介動画

<https://www.youtube.com/watch?v=6KSeSnDBWsc>



看護学科同窓会 木蓮会について

<https://dousoukai.site/mokurenkai/>

<NP入試について>

2027年度香川大学

ナーシング・プロフェッショナル育成入試の概要

https://www.med.kagawa-u.ac.jp/prospective_students/kango/suisen_nyuushi/

2027年度香川大学

ナーシング・プロフェッショナル育成入試学生募集要項

https://www.kagawa-u.ac.jp/admission/admission_guide/17488/

<NP入試以外の入試についても知りたい方>

看護学科入試について

https://www.med.kagawa-u.ac.jp/prospective_students/kango/





<発行元>

香川大学医学部看護学科

〒761-0793

香川県木田郡三木町池戸1750-1

<問い合わせ先>

香川大学医学部学務課入試係

TEL : (087)891-2074

Email : nyuusi-m@kagawa-u.ac.jp